「クールアース・デー（地球温暖化防止の日）」の創設等に関する意見書

近年、乾燥地域の拡大や氷河の後退、異常気象の頻発、海面上昇等、地球温暖化の影響によるものと指摘される事象が地球規模で顕在化している。20世紀の間に地球の平均気温は0.74度上昇し、我が国の平均気温も約1度上昇している。最悪の場合、21世紀末には最大で6.4度気温が上がり、59センチメートル海面が上昇するとの予測もあり、地球温暖化防止に向けた取り組みが喫緊の課題であることは誰の目にも明らかである。

このような中、環境・気候変動問題等を主要テーマに、本年7月、日本を議長国として北海道洞爺湖サミットが開催される。政府においては、ダボス会議で福田首相が「クールアース推進構想」を提唱するとともに、京都議定書の温室効果ガス削減目標達成のために、地球温暖化対策推進法を改正するなど、所要の温暖化防止対策を講じている。

「環境立国」を目指す我が国は、サミット開催国として積極的に議論をリードするとともに、地球温暖化防止に向けた国民的取り組みを、より一層推進する責務があることは論をまたないところである。

よって、国においては、首相が地球温暖化対策「福田ビジョン」において宣言した「クールアース・デーの設定（7月7日）」を受け、サミット開催の象徴として、開催初日の7月7日を「クールアース・デー」と定めることを初め、地球温暖化防止に向けた国民的取り組みへの意識啓発を促すため、下記事項を実現するよう強く要請するものである。

記

- 1 北海道洞爺湖サミットの開催初日の7月7日を「クールアース・デー」と定め、地球温暖化防止のために啓発し合い、皆で行動する日とすること。
- 2 クールアース・デーには、二酸化炭素削減のため、全国のライトアッ

ブ施設や家庭などが連携して、電力の使用を一定時間控えるライトダウン運動などの啓発イベントを開催し、地球温暖化防止のために行動する機会の創出に取り組むこと。

3 クールビズやウオームビズについて認知度を深めるとともに、温度調節の実施率を高めること。

4 「チーム・マイナス6%」などの国民参加型運動の一層の普及促進及び民間企業にさらに理解、協力を求めること。また、エコポイント制度の普及促進に努めること。

5 商品の料金の一部を温室効果ガス削減事業に充てるなどのカーボンオフセット（温室効果ガスの相殺）については、関係者による協議体をつくり、その信用性を高めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成20年6月30日

秋田県秋田市議会

内閣総理大臣	福	田	康	夫	様
環境大臣	鴨	下	一	郎	様
衆議院議長	河	野	洋	平	様
参議院議長	江	田	五	月	様